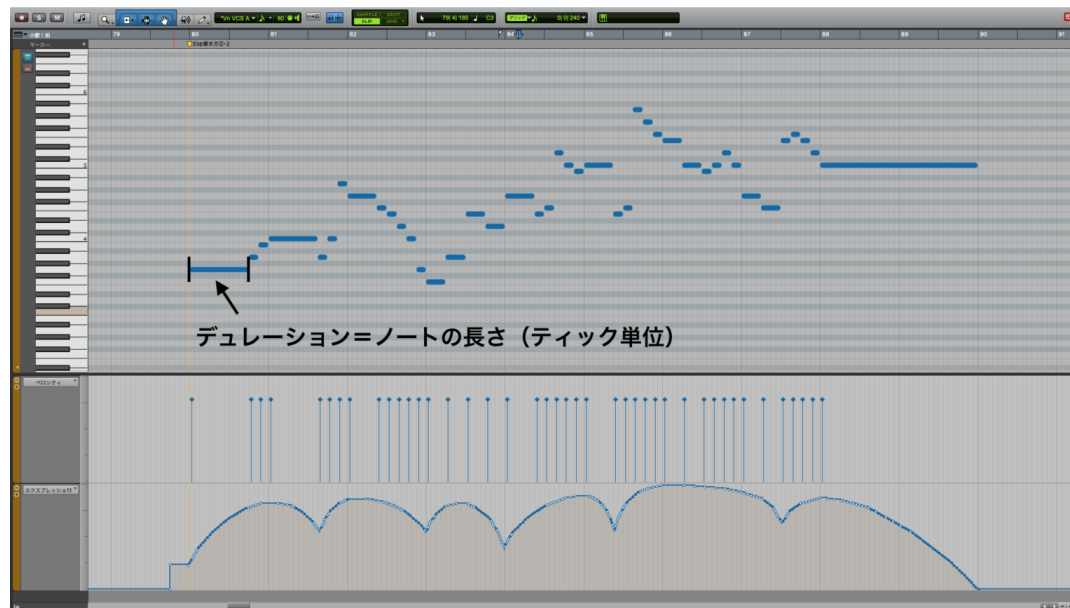


# 3-3 ホーンセクションの デュレーション

# デュレーションの基本

ノート(音)の長さのこと。正確には、ノートオンからノートオフまでの長さを表すパラメータ。同じく音の長さを表す言葉に「音価」があるが、「音価」はあくまで楽譜上に書き表すことのできる音の長さであるのに対して、「デュレーション」は楽譜では表現しきれないような細かい長さを「ティック」単位で指定できるのが特徴。



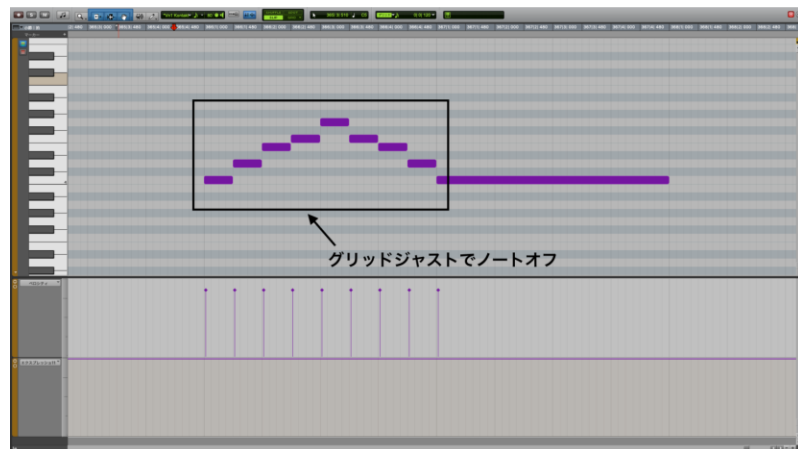
# デュレーションのもたらす効果

- ① レガート感(滑らかさ)
- ② 歯切れの良さ
- ③ グルーヴ感

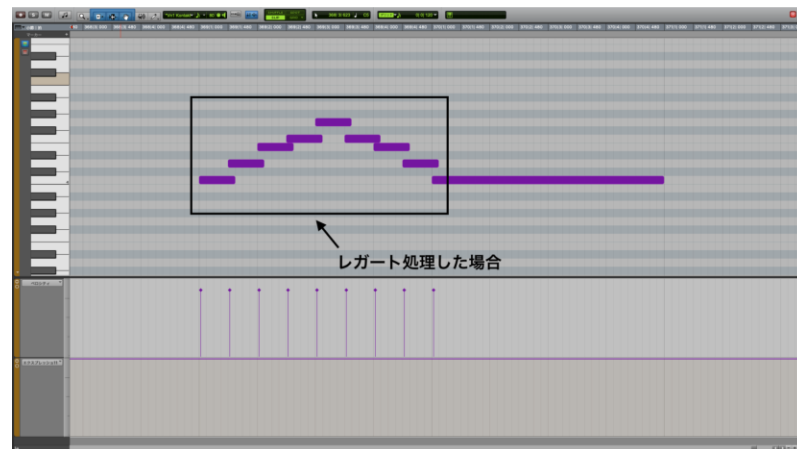
## デュレーションのもたらす効果①:レガート感(滑らかさ)

レガート感は、デュレーションコントロールで最も重要な要素。フレーズを滑らかにつなげて演奏する「レガート」や「スラー」といった奏法の実現には、デュレーションのコントロールが欠かせない。

### ■ デュレーション未調整



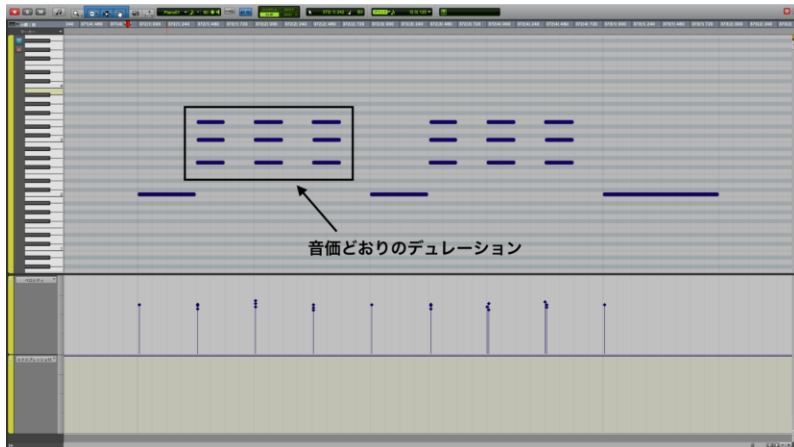
### ■ デュレーション調整後



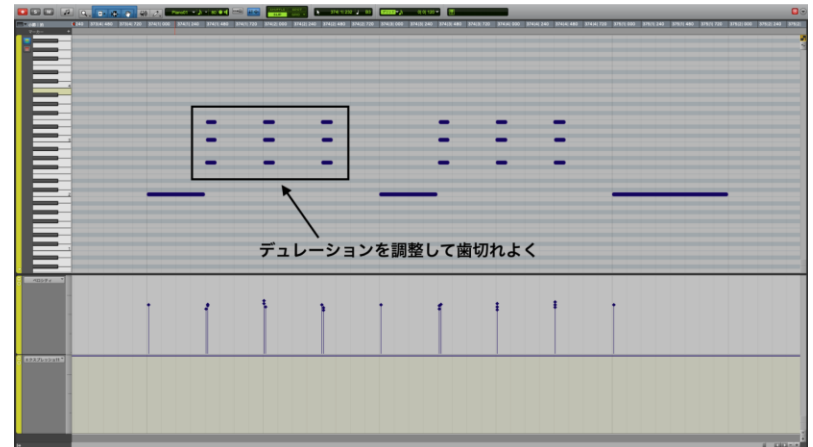
# デュレーションのもたらす効果②: 歯切れの良さ

デュレーションのコントロールは演奏の歯切れの良さにも影響する。とくにピアノのスタッカートなどでは顕著に現れる部分なので、丁寧にエディットしよう。

## ■ デュレーション未調整



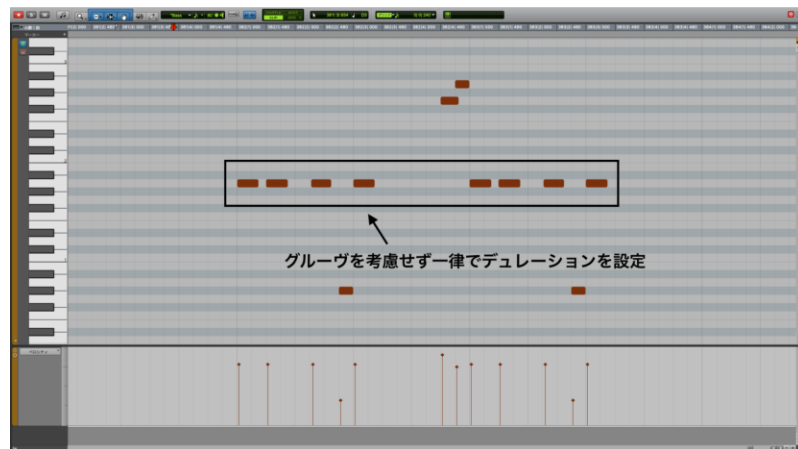
## ■ デュレーション調整後



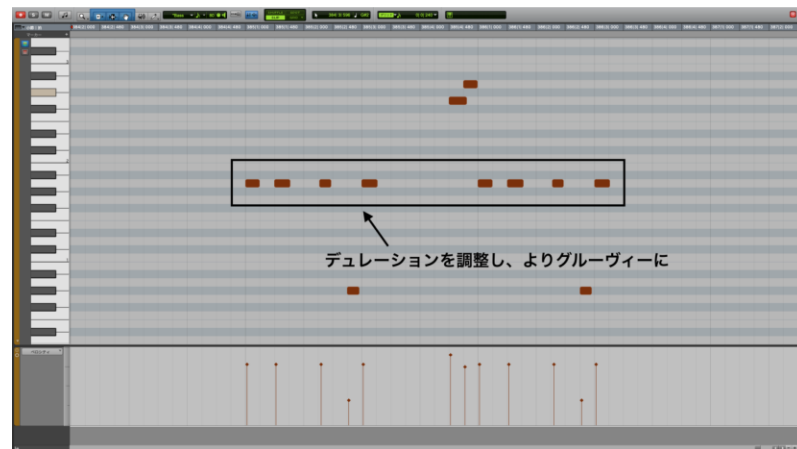
## デュレーションのもたらす効果③: グルーヴ感

グルーヴ感というと、クオンタイズなどの「発音タイミング」にばかり目が向きがちだが、デュレーションもグルーヴを司る大事な要素。とくにベースのデュレーションは楽曲全体のグルーヴに大きく作用するため、丁寧にエディットしたい。

### ■ デュレーション未調整



### ■ デュレーション調整後



# ホーンセクションの デュレーション設定方法

# ホーンセクションのデュレーション設定方法

ホーンセクションにおいては、前項でご説明した、「レガート感」「歯切れの良さ」「グルーブ感」のうち、とくに「歯切れの良さ」が重要になる。それを実現するために、以下のポイントに着目しよう。

1. 楽譜上の音価より短く打ち込むのがキモ
2. テヌート部分も若干短く打ち込む
3. レガートは専用音色で実現



# 1. 楽譜上の音価より短く打ち込むのがキモ

スタッカートやアクセントを多用した歯切れの良いフレーズを再現する場合には、楽譜に記載されている音価より短めに打ち込むのが基本。楽譜上の音価とティックの関係は下表の通りだが、実際にはこれよりも短く打ち込んだ方が歯切れの良い演奏になる。

楽譜上の表記	ティック(960分解能の場合)
4分音符	960Tick
8分音符	480Tick
16分音符	240Tick
スタッカート付きの場合	上記Tick数の半分のデュレーション

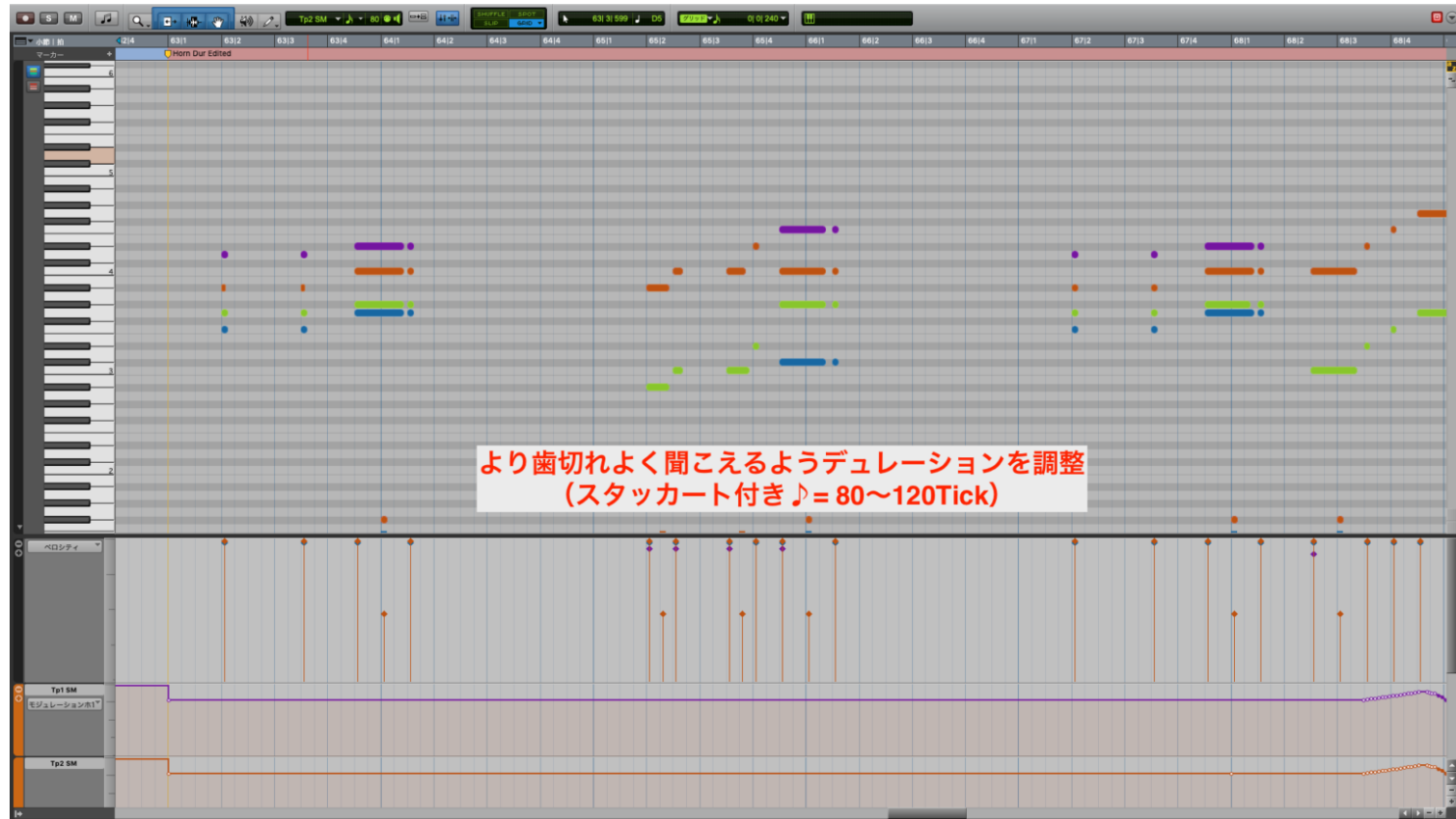
# 1. 楽譜上の音価より短く打ち込むのがキモ

The image shows a musical score for four instruments: Trumpet 1 (Tp.1), Trumpet 2 (Tp.2), Alto Saxophone (A.Sax), and Trombone (Tb.). The score is in 4/4 time and features a rhythmic pattern of eighth notes. The first measure of the pattern is marked with a red box and labeled 'A'' above it. The second measure is also marked with a red box. The dynamics are marked as *mf* (mezzo-forte) for the first measure and *fp* (fortissimo) for the second measure, with a *ff* (fortissimo) dynamic indicated for the final measure of the pattern. The notes are beamed together, and the first measure is marked with a *mf* dynamic. The second measure is marked with a *fp* dynamic, and the final measure is marked with a *ff* dynamic. The score is written in a key signature of one flat (B-flat major or D minor).

楽譜上ではスタッカートつき8分音符(=240ティック)だが、実際にはもっと短く打ち込むと良い。

# 1. 楽譜上の音価より短く打ち込むのがキモ

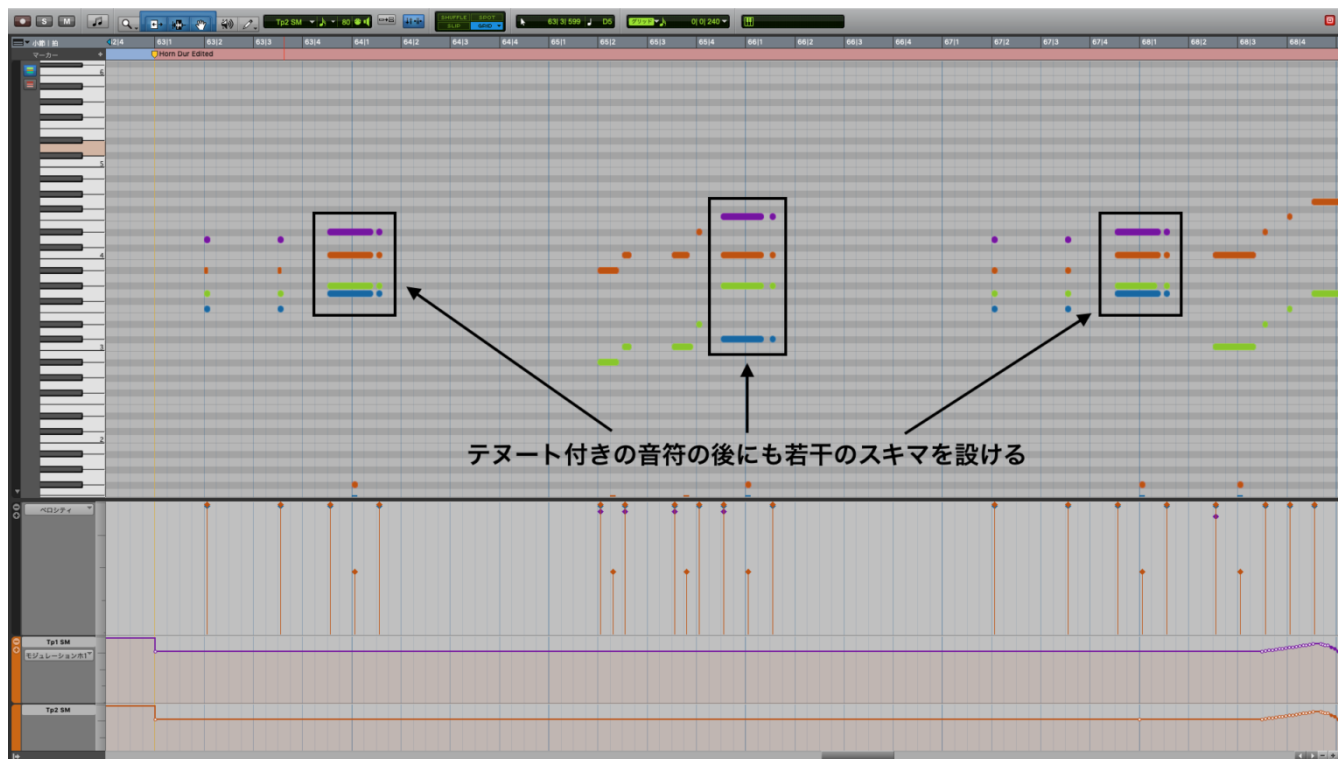
実際に打ち込んだ様子



より歯切れよく聞こえるようデューレーションを調整  
(スタッカート付き ♩ = 80~120Tick)

## 2. テヌート部分も若干短く打ち込む

テヌート記号がついた音符は、その長さを極力保ちながら演奏するのが基本だが、管楽器の場合はタンギングの都合上、先行するノートと次の音との間にごく短い隙間が生まれるもの。したがって、テヌートの場合も少し短めに打ち込むとよい。



The image shows a screenshot of a music production software interface, likely Ableton Live, displaying a piano roll. The piano roll shows a sequence of notes on a keyboard, with three specific notes highlighted by black boxes. Arrows point from these boxes to a text annotation in the center of the piano roll that reads: "テヌート付きの音符の後にも若干のスキマを設ける" (Set a small gap after tenuto notes). The piano roll also shows a MIDI piano roll with notes and a MIDI velocity lane below it. The interface includes a piano keyboard on the left and a timeline at the top.

### 3. レガートは専用音色で実現

ホーンセクションなどの管楽器では、原則として1声部につき1人しか奏者がいないため、デュレーションの調整だけではリアルなレガートを実現しにくい。したがって、レガート専用音色を用いるのがおすすめ。

#### 【レガート専用音色を持つ代表的なホーン音源の例】

- Sample Modelingのホーン音源
- Audio Modelingのホーン音源
- Session Horns Pro
- EastWest Hollywood Pop Brass
- Aaron Venture Infinite Brass